

創刊号





ファンタジー研究会機関誌



## 創刊号

Contents

劇場	門倉直人	2
ファンタジーって何だろう ～特集～ 「トムは真夜中の庭で」 読書会	山岸侯彦	4
上昇・下降の一考察	毛呂恭久	7
権説 ROOTS	滝雅行	29
フェルメール 光の幻想	八木淳	32
『火の鳥はどこに』によせて	大場葉子	33
雑感	江馬龍一	34

# 劇場

門倉直人

一

劇場に入ると観客は僕一人だつた。誰もいなくなつた校庭に一人とり残された様な感じで中程の席に着く。しばらくぼんやりと前を見ていたら、いつの間にやら劇は始まつていた。

老人が出てきた。子供も出てきた。男も女も、笑い、泣き、怒つていた。僕は黙つて見ていた。彼らはよく動いた。踊り、くるくるまわつた。パンと跳ね、転がつた。僕は黙つて見ていた。妙な苟立ちを感じながら。

最初は観客一人だけのためによくやつてくれる、と感心していた。でも、彼らが話す相手は彼ら。彼らが見る相手は彼ら。僕は黙つて見ていた。静かだつた。

気がつくと舞台の上にいた。パンと跳ね、転がつた。そうして、誰もいない観客席の前で僕らはいつまでも踊つていた。

前に進むけれど、出口はなかなか見えない。どこかの家の夕飯のにおいや豆腐屋さんのラッパの音が、のろのろ進むユリの足を速めさせた。戻ろうか、でも入口も見えない程来ちゃつたし、いいや。空も黒、右の壁も、左の壁も黒、地面も黒、ユリも黒。

とうとうユリは走りだした。壁を走つて、地面を走つて、空を走つて、もうどのくらい早く、遅く走りつけたのか、わからなくなつた。

やつと先に幕が見えた。赤い幕だ。ユリは細い道から抜け出して幕の向こう側にくぐり出た。よく見るとユリは舞台の上にいた。すぐ先には多勢の観客がいる。さあ困つた。でも観客のほとんどは突然入ってきたユリの方など見てなかつた。みな思い思ひに好きな俳優の演技を見てた。でもその中の一人がじつとユリを見てた。あつ、あれはマツちゃんだわ。そう思つて、マツちゃんを呼ぼうとした瞬間、ぐいと手を後ろからひっぱられて、赤い幕の向こう側に出されてしまつた。

ユリは黒。今日は上から下まで黒だつた。  
マツちゃんの家から帰る道はいつも決つた道。でも、今日は横道に入りたかつた。もう大分暗くなつてきたので少し怖い気もしたけれど、この横道は前から入つてみたかつた。

細い横道は入つてみると、もつともつと細くて、やせたユリの体でもやつとのことだつた。のろのろ

その日、ユリがマツちゃんのお葬式から帰つたのは、寄道のせいで一時間遅くなつた。

## ファンタジーって何だろう

山岸侯彦

ふとしたはずみで、僕がファンタ研の例会に顔を

出すようになつて以来、すでに幾年月。これで部費  
さえ払えばもう立派な部員、という位、もうどつぶ  
りとつかつてしまつたけど、ここに至つて、今一つ  
ワケのワカラないことがあつて、これは、もう、か  
なり大事なことなんで、この際、この場を借りて考  
えてみたいんだけど、ファンタジーって、一体、何  
なんだろうね。

ふつふつふ。君い、それはねえ、いわゆる、げん  
そーぶんがくのことなんですよ、とか吐かす奴はあ  
つちに行つちまえ。ゲンソーブンガクがどれもこれ  
もファンタジーだつてんなら、筒井はファンタジー  
か。ハインラインはファンタジーか。ふざけんなこ  
の野郎……と、まあ、こーゆーことになるわけで、  
ファンタジーが何かつて、そうあつさりとワカルも  
んでもないらしい。別に、無理にワカラなくともい

いような気もするけど、下手に、ワカラないまま放  
つておいたアカツキには、ファンタ研なんだかロッ  
ク研なんだか、区別がつかなくなりそーな気がした  
りして。もう、すでに、あまりにもロック研だつた  
りして。だから、この際、多少無理矢理にでもワカ  
りしてしまおう、とゆーわけです。

誰がどう見ても、これはファンタジーでござい、  
としか、言いようのないものつて、何があるだろう、  
あんまりよく知らんけど、例えば「指輪物語」とか  
「ウォーターシップダウン」とか、そうだろうね。  
で、厄介なのは、ファンタジーと考えて、考えられ  
なくもないけど、そうじやない別のものとも考えら  
れるよ、という奴で、この手のものは、僕でもかな  
り沢山知つているのですな。曰く、大島弓子、曰く  
二〇〇一年、ル・グインに、ラリイ・ニーヴンに、  
星野之宣に、スター・ウォーズ……は、どうかな。  
まあ、ともかく、そこいら辺ですな。

そーなんですねえ。今、チラつとあげただけでも、  
S Fの類がかなりあるんですねえ。これがまた、厄  
介のタネで。S Fですよエスエフ、エスエフ。  
こ奴を一体どう扱つたもんか。S Fなんだか、フ

アンタジーなんだかワケのワカラないもんが、さがせば、それこそ、ゴマンとあるんですね。だつてほら、クラークの「幼年期の終り」なんて、SFの古典とされてすらいるけど、やつぱり、ファンタジーだと思わない?。まあ、これには多少、異論もあるだろうけど。表現をエンリヨしてもこれは七、八歩位ファンタジーですよ。でも、ハインラインになると、これはもう全くのエスエフで、どう考へてもファンタジーとは言いたい。してみると、ここいら辺に、ファンタジーなるものと、ならざるものとの、一つの境い目があるみたいですね。

そこで、とりあえず、SFつてのは、一体何だろう。これは、かなりはつきりと言ひきれるらしくて、よく聞くことだけど、「美女が出てきて、怪物が出てきて、宇宙船が出てくれば」もう、それは立派なSFらしい。つまり、松坂慶子の顔をしたビグモンがスペースシャトルのバイロットにでもなれば、もうSFなんですか。ナルホド、これは納得できる。でも、だからといって、これをちょっとといじくつて、美女と怪物と魔法でも出て来さえすれば、ファンタジーかつてゆーと、こつちはそんな安直なもん

じゃないらしい。「五つの壺」はどうしてくれる。「ウォーターシップダウン」はどうしてくれる。「指輪物語」は、どうやら、さつきの説明でよさそな氣もするけど。

話変わって、僕はかつて、貞操帯物語なるパロを考えたことがあつて、これはつまり、昔に滅びの山だかキレツだかで、十といくつかの魔法の貞操帯を作つて、いくつかを人間、いくつかをエルフ、といった風に分けて、いちばん強くて根の暗い貞操帯は、サウロンが持つてたけど、何かのはずみでゴラムに取られて、ビルボに取られて、これを貞操にキリリとしめると姿が見えなくなつたりして、これを何とか捨てなきやいかん、とゆーので、フロードの一行が出发して、ロリエンに着いたら、ガラドリエル様なんかは、ちゃんと、エルフの魔法の貞操帯を着用して迎えてくれたりして、最後には、ゴラムが、滅びのキレツの所で、フロードから問題の貞操帯を奪つて、自分でしめて、「いとしい、いとしい、いとしいー」かなんか言つて、「いとしいいそつたいいいい」となんか言つて、足すべらして滅びのキレツの

中に落ちたりして。あーくだらん、くだらん。

どうしてこんなくだらん話したのかとゆーと、つ

まり、これでは、あまりにも、あんまりだ。美女も  
出てくるし、怪物も出てくるし、魔法だつて出てくる

るけど、どう考へても、貞操帶物語ではファンタジ

ーにはならんのですよ。指輪が貞操帶になつただけ  
で、かの格調の高い作品がこれだけサイアクになれ  
るのだから、一つのことだけは分つた。

ファンタジーは品位もなきやいかん。美女と怪物

と魔法だけじゃダメなんだ。

で、つらつら考へて、ますますワケがワカラなくな  
つてしまつたけど、ファンタジーって、一体、何  
なんだろうね。



### メンバー紹介

### 山岸 侯彦

RRRRR RRRRR RRR

はいもしもし、山岸です。ああ、俺だ。うん。

で、どうしたの。

え。何。部誌の自己紹介文書き直せだと。だ  
つてあれはこの間送つたばつか。え、360字に削  
れだと。あの時400字でいいつて。分つたよ。書  
き直しやいんでしょ。

で、内容は。前と同じでいいのか？また、私は  
はヤマギシキミヒコで、'62年3月20日生まれの  
魚座のB型の分裂気質の塾高出身で、文学部の  
人間科学の3年で、他にはHQつてサークルや  
つつててどうのこうの……つまり何でもいいわけ  
ね。

で、今度はいつ持つてくる。明日だと。今か  
ら書けつてのか。はいはい。分りましたよ。明  
日までに書きますよ。じや昼休みに持つてきや  
いいな。分つた。それじゃ。

CLICK.

実録　⑤恐怖のファンタジー研読書会

於 三田3号校舎 332番教室

時 昭和56年6月17日

課題図書 「トムは真夜中の庭で」

フイリパ・ピアス著

主催・協力 ファンタジー研究会

☆ 時間のおよぼすもの

小町 皆さん。レポーターが発表します。注目しま

しょう。

美波 ジャンジヤカジャーン

向井 じやあ始めます。(おもむろに) 拍手は?

一同 パチ、パチ、パチ

向井 僕はSFが好きだけど、時間がどうのこうの

つていう場合、一番の中心点つていうのは、時

間のトリックというよりも、時間が人間に及ぼす影響だと思うんだ。時間がたつにつれて変わっていく、つていうね。そしてそれがこの一冊の本に圧縮されているつて思うんだ。トムとハティつていう人物が登場するけど、トムはずつと変わらないでしょ。精神状態つていうのかな、庭でそういう時間をもちたいつていうね。それに対してハティつていうのはどんどん成長しちゃつて大人になつていつてしまふ。そういう、ハティとトムの心理を見ていくと、ずれがどんどん出てくるのがわかるよね。そのへんのことを作者はいいかつたんじゃないかと思うんだけど…。ついにはハティは大人の方に行っちゃうし、トムはその時間にとどまりたいのに、時間が流れていっちゃんのをいやおうなしに見せつけられてしまう。で、これで終つちやつたらトムの悲劇になるんだけど、最後にバーソロミュー夫人がハティだ、ということがわかつて、二人で理解しあえた。そこに解決つていうのかな、作者が言いたかつたものがあるんじやないかな。

◆ ピーターの入り方への疑問

メンバー紹介

向井 洪

小町

問題点なんかどうですか？

向井

問題点ですか？ うーん……。

内容というよりも技巧上の問題なんだけど、ちよつと疑問に思つたことがあるんだ。ピーターが、突然トムとハティの世界に入つてくるでしよう？。トムは一応起きていて、庭に行つてそこで時間を逆行してあの世界に入つているけど、ピーターの場合は寝てるんだ。寝てて夢の中でピーターが入つていつちやうつてのは、あれつて感じがするんだ。ハティ一つまり、バーソロミュー夫人は小さい時に実際に体験したわけでしょ。でないと夢に見ないよね。夢に見ることは実際に体験してるつてことだから、トムは時間をさかのぼつて、その世界に行つたつてことになる。でもピーターは寝てる間にその世界に行つているわけでしょ。しかも場所もバツと越えてー。僕はここがおかしいなと思つたわけです。

小町 これをどういうふうに解決したらいいのかな。

S.F.が好きなせいだろうか、僕がファンタジーに對して持つてゐるイメージは幾分ハードなもので、"とりとめのない幻想"ではなく"とりとめのある空想"であり、現実とは違う世界における極めて理路整然とした出来事、なのである。虚構の中にもある種のリアリティを要求し、単なる理想世界では満足しない。そして、その世界なりの強固なルールに従つて、考え、行動し、楽しむのだ。現実から離れ、もう一つの世界にのめり込むのだ。こうなるから、ファンタジーは現実からの逃避だと白い目で見られるのかもしれない。だがね、現実の世界にしか生きない人間といふのは、現実に捕われてゐるにすぎないのでよ。ファンタジーの世界にはいると、逆に現実の世界といふものがはつきりと見えてくる。現実の世界のアホらしさが見えてくる。おもしろいものだねえ。皮肉なものだねえ。全然自己紹介になつてないねえ。

滝

僕もやつぱりあれつて思つたよ。それで、向井は、あそこでピーターが入らない方が良かつたと思う？

向井 うーん。入れてもいいと思うんだけど。入り方がトムと違うのがね、気になる。

滝 ちよつと唐突だよね。

✿ 再び「時間」のおよぼすもの

小町 まあ、その問題はちよつと置いとくことにしで。最初に向井が言つた、時間が人間にどういう影響を与えるかつてことについて話してみよう。

向井 やはりトムとハティの対照に現われているんじゃないかな。それともう一つ思つたのは、作者の小さい頃の思い出も入つてゐるなつてこと。作者も小さい頃は楽しかつたと思うんだ。そしてその時間で止まりたいと思つてた。でも無常にも時間はどんどん流れていつちやつて、自分も場所も変わつていつちやう。そういう点も、

書く動機になつたと思うし、その気持がやつぱり話の中に現われているなあと……。

大場

私の意見も同じような感じなの。大人になつちやつて、トムも見えなくなつちやつたハティが、バーソロミュー夫人としてトムと会つた時には、まあ実際いたからなんだけど、トムが見えて、わかつて。そこが、いいなつて思うんだ。つまりね、トムはハティの成長を通して大人になるつてことを見つめている。そしてハティがトムのことが見えなくなつてしまふといふことが、

普通一般に言う「大人になる」つていうことだと思うのね。だけど大人になつたハティがまた、トムのことがわかる。つてことは大人と子供つていうのは、物理的な時間だけで隔てられてしまふんじやない、精神状態として同じになれる、という感じで、そこが希望的で私は好きなの。それと、さつきのピーターが出てくる所だけど私もわかんないなと思つたんだけど、一応共通項はあると思うの。<sup>286</sup>という数字が出てくるでしょう？

美波 ああ、階段の数？

大場 うん。階段を数えて 286。ピーターは眠ろうと

して数を数えるけどそれも 286。結局、共通項つていつてもそれしかないから不自然と言えば不自然なんだけど。でも逆に言うと 286 どうのは接点ではないかと。ピーターはトムの所に行きたくてたまらなかつた。トムとハティの方も、ハティは少女の頃に戻りたくて、トムはあの世界に行きたくて。そういう思いが二人を会わせたと思うのね、私は。だから、ピーターがあそこに入つていけたというのは行きたいつていう、ピーターの思いが 286 という接点を通して行かせたんじやないかなあと思つたんだけど。ちょつと唐突だけどね。

小町 どういう意味において？

向井 トムとハティが時間的にも精神的にも離れてしまつたにもかかわらず、最後に会つた時、理解し合えたといふ所かな……。ハティがいなくなつちやつて、トムは本当に失望するんだけど、最後にバーソロミュー夫人、つまりハティといふ、同じ体験をした人に会つて理解できて、めでたし、めでたし、と……。

小町 大場さんはどんな意見？

大場 ハティとトムが最後に理解し合えたことが、ある意味ではとつても重要なことじやないかと……。

美波 なんか、カチッと音がしそうね。

大場 なんとなく。

卒 子供と大人と老人と

大場 年齢は勿論として、一度は同じ世界に住めなくなつたハティとトムとが、もう一度同じ世界に、庭園はないけれど同じ世界に戻れたつていふか、お互いが、お互いを理解し合えたということ。

美波 やつぱり大人と子供の問題なのかしら？

小町 そうなんじやない？ 向井はあのラストのと

滝 老人つていうのは戻り易いのかもしれないね、ひよつとしたら。もう世間のこと忙しくなくつてゐるでしょ。考えるつて言つたら、今まで

ころをどういうふうに見たわけ？

のことが多い。だから子供と接点があるのかも知れない。バーソロミュー夫人は、相當年とつた人だし。共通である部分もあるんじやないかな。

美波 でもそういうのって、うろたえるね。やる事が失くなつてから初めて子供と同じなんて。妻に失望する感じが……するよね。

野田

そうね。

滝 だけど、実際大人つて、目先のことにはついて、幼時に帰ろうとしないしね。サン＝ティグジュベリにあるけど、大人は誰も初めは子供だつた、だけどそれを忘れずにいる大人は少ししかいない……。やつぱり大人つてのは忘れちゃつているしね。

大場 トムのおじさんが、そういう存在なんでしょう。

美波 そうね。大人の代表みたいね。

一同

(うんうんといふ笑い)

滝 アマゾンまで行かなくても

美波 先日、野田さんがね、トムつてうらやましい

わつて言つてたんですけど、私はそのことについて聞いてみたいなあと……。ええ、この一週間、考えていたんですけど、そななんですか？

野田

私がうらやましいつて言つたのは、すごく主観的なのね。感想つていうより、私の現実の世界と照らし合わせてみて、うらやましいと思つたの。現実には、トムは楽しい事も全然なくてつまんないつて思つたでしょ。でも夜中になるとすごい世界があつて、すごく充実してる。自分の精神の中だけで充ち足りてゐるんだなつて、それが凄くうらやましかつたつていう感じ。だから、あれを読んで私は、自分は現実の生活の中だけで充ちたりたものを探そうとしてたけどそれは所詮、無理なことで、もつと精神的な方で満足出来るような生活を探さなければいけないつて思つたのね。だからね、あれで目覚めたの、すごく……。

滝 真夜中つてのがすごくいいんじゃない？ 子供つて、夜遊ぶつていつたらすごく喜こばない？ 僕が小学校の時、町の子供会でお化け屋敷

作つたんだ。その時花火大会なんかもやつたん

だよね。一夜遊ぶつていつたらね、もうわくわくしてたからね。

美波 うん。私も彗星群が来るつていらんで小学校

の校庭に近所のガキみんなで見に行つたのね、結局その時曇つて彗星群は見えなかつたんだけど、リレーやつたり、いろいろなことやつてすごく楽しかつたよ。

滝 夜つて言つたら冒険の代名詞つてぐらいになつてるでしょ。それを巧みに時間の問題と絡み合せて一つの作品にしたつていらるのは、子供心を知つてゐる、つていうのかな。

美波 アマゾンまで行かなくても冒険はできるつてことね。

滝 夜とか、地下室とかね。

✿ 妖精物語とも言えるね

美波 子供と大人の違ひってなんでしょうね。作者は子供の気持ちを持つてゐる大人なのかな。

滝 何才位で書いたのか知らない？

美波 おばんになつてからだつけ？

吉田 37だよ

美波 37才……

滝 ハティにしてみれば、すごく面白いんじやない？ いつ現われるかわからんないしさ。

八木 そうだよね。何ヶ月か経つて、前の遊びをするわけでしょ。信じられないね。

八木 それで、ハティが、又会いたいと思つてゐるから、待つてゐるから、会える、ということはないかな。ハティは、あの男の人（注・ハティの知人、後の夫）が現われてもうトムのことを忘れちやつたんだろうな。だからあれで終わつた、トムはあの世界に行けなくなつたんじやないかな。

滝 いろいろ妖精の話つてあるけど、自分が妖精になつてしまふ話つてのは、そんなにないんじ

やない？ 例えは、妖精に会つた話、つてのはあるじゃない。ハティから見たら、妖精が時々出てきてそれに会いました、というようなロマンチックな物語になる。でも主人公はトムで、最初はハティの方が妖精みたいな感じで会つていいけど、結局はトムの方が妖精だつた、ハティにしてみればね。何か知らぬ間に自分が妖精になつっていたという小説……。面白い形だなあと思つた。

美波 おかしいもんね。お前が幽霊だとかつて互いに言いあつたりね。おかしかつたわア。どつちが幽霊かやつてみようとか……。

野田 ふふふふ（笑い）

美波 でも、当事者にしてみれば大問題だよね。自分で分の存在が否定されるんだから。

一同 ははははは（大笑い）

卒 なぜ、そのままでいたいと思うのか

小町 向井君に質問があるんですけど。さつきね、

作者は昔のままでいたかつたつて言つたでしょう。のことについて……。

向井 戻りたいつていうより、懐かしんでるつていうのかな。誰にでもあるでしょう。小さい時は樂しかつたつていうイメージを持つてるし、昔のままであつてほしいつてのもある。それなのに思い出の場所さえ破壊されていつたり、なくなつちやつたりー。なんだろう、やつぱり人間つてものは過去を思うことがあるわけでしょう？ そういう意味で言つたんだけど。帰りたいとう強い願望よりも。

小町 作者は、子供の頃から「今のまんまでいたい」と思つていたのかな？

向井 いや、大人になつてみて、そう思うわけでしょう？ 子供の時は全然、意識せずに、無邪気になつ……。でも大人になつてみたら、そういうのが誰にでもあると思うけど。

小町 子供の頃は今のままでいたい、なんて思わぬいでね。でもトムは思つたじやない、子供だけど、今までいたいつて。

向井 トムは今のままでいたいか、その庭で遊びた

いわけでしょ。ハティと一緒に。ということは、それに対立する状態があつたわけだよね。おばさんの家に隔離されていて、面白くも何ともない。で、庭に行つて、ハティと遊んで楽しいわけでしょ？だから、もつとそれを楽しみたいわけよね。ところがどんどん変わつていつちやう。トムは夜行つたらその庭があつて、ハティがいて一緒に遊べる、という状態がもつと欲しいわけだよね。普通、子供が遊ぶ場合は一年や二年はそういう状態が持続する。

ところがトムの場合、次に庭に行くと、もう何年も経つている。どんどんハティは成長しち

やうし、庭の様子も変わつていつちやう。ものすごく変わり方が早いんだ。だからすごく意識するわけ。時間が、というかそのままの状態で止まつて欲しいと思つたのは、そういうことからじやないかな。

美波

子供らしくないと思はない？ そういうのつて。

向井

そうかなア。子供でも、たとえばある環境について、明日もそのままの環境で遊ぼうと思つて

いるのに、環境が急速に変わつていつてしまつたら、やっぱりいやだと思うでしょ？ たとえば自分の成長が止まつたと考えてみてよ。

まわりの友達がどんどん大きくなつちやつて、どんどん考え方があつていつちやつたら、やつぱり、自分が楽しく遊んでいた状態においておきたいと思うんだ。自分も一緒に成長していくなら、まあそれなりにやつていけるけど、この場合はハティだけがどんどん変わつていつちやう。それが寂しかつたから、ずっとそのまんまでいて欲しいと思つたんじやないか。極端に変わるから、意識の仕方も強くなる。

小町

ハティもトムと同じスピードで成長していくとしたら、それは思わなかつたつてことか。

◆ 楽しかつた過去へ

小町

最後に、ハティがおばあさんになつた時に、トムのことを思い出すのはどうしてだろう。

向井 成長の過程、つていつたらおかしいけど、大

きくなる時つて、その年齢に合つた、楽しいこ

と、やりたいことがあるわけでしょ。

美波 うん……。

向井 で、その時点、その時点では後ろを振り返る

暇はないつていふか常に現実を前にしているわけでしょ。でもみんな死んじやつて一人になつたら先の方がない。先を作ろうと思つたら、今

の活動範囲を広げなくちやならない。そういうのがあつてこそ、明日への希望があるわけだから。

大場 ふふふふ（笑い）

向井 まわりが全部死んじやつて友達もいなくなる。

そうなるとやつぱり過去一何ていふのかな、楽しかつた方、楽しかつた方へと心の方向が戻つていくんじやないかな。

卒 偶然の一致とはみれないか。

……恐るべき沈滯が忍びよつた……。

小町 対立意見が出ないと盛り上がらないね。

吉田 あ、対立意見出しましようか？

滝 行きましょう！

吉田 やんや、やんや

吉田 僕、この本読んでそういう細かなことまで読みとつていいのかなア一つて、ず一つと考えてたんだ。今みんなの話を聞いて。

美波 うん。

吉田 全部、偶然の一致だと思うのね、僕は。

野田 小町 ちゃんと説明してよ。

吉田 毎日毎日、同じ夢を見るの。ある人間が病気の時、

ある家の夢なんだ。毎晩同じ家の夢を見て、夢の中でのその家の中を歩きまわるんだ。その人はその家がどの家だかわからない。どうしても気になるんで、病気が治つてから捜してみたら遠い所に、夢に見たのと同じ家があつたんだ。ドアをたいても誰も出てこない。空家だつたんだ。管理人が出て来たんで、この家は誰か住んでませんかつて聞くと、ここには幽霊が出るんで誰も住んでないつて言うの。そんなものい

るはないじやありませんかつて言うと、あなたにそんなこという資格はありませんよ。幽靈はあなただつたんですから、つて言われる……。

一同  
ほー……

吉田 ピーターとトムが大聖堂で顔を合わせたつて

いうのが説明つかない？ この小説みたいに考えると、ピーターは大聖堂の夢ばかり見て困つてたんでしょ。うとうとしてくると。

向井 そういう考え方もできると思うけど、ピーターの入り方つてのはトムの入り方と違うでしょ、トムの場合は時間は違うけれど場所は実際に行つてるわけでしょう。その場所に。

吉田 うん……。だけどもうひとついい？ 後半にトムが家の外で自然に眠つちやうところがあつたでしょ。

美波 あー、あつた、あつた。

吉田 そして気がつかない間にベッドにもぐつていった、だけどスリップはドアのところにはさんであつた、と。

美波 しつかりスケートの靴を手に持つていたとかね。

目が覚めると、もう夕方近くだつた。パジャマを、するするひきずりながらベッドから這い出て、食い物を求めて台所へ行く。何も食べるものがないので、洗顔を先に済ませることにする。歯をごしごし磨いて、顔をじやぼじやぼ洗う。ヤカンに水を入れて火にかける。お湯が沸くのを待つ間、テレビのスイッチをひねるが、別に見たいものもない。お茶を入れると、大好きなビスケットを抱えて、それを頬張りながら、見るともなしにテレビを見ている。猫が足にまとわりついてうるさい。ええい、あつちに行けい！ お前にはやらぬ。ビスケットとお茶で飢えを凌ぐと、テレビを消してまた自分の部屋へ戻る。今日はパジャマを脱ぐのはやめようと思う。残りの時間はレコードを聞いて過ごそう。ラモーンズのレコードをターンテーブルにのせて、スイッチを入れると、ジョーイの声が部屋に響く。「僕たちは何かするべき事がほしいんだ」

吉田 だけど、ベッドの中にいたつてことは、何か

ちょっと……。

美波 実際、夢ではないかといふ仮説もたつ。あれ

はちょっと不思議だものね。

吉田 いや、夢だつたんじやないかつてのはちょっと

とおかしいと思うよ。

美波 そう?

吉田 うん。夢じやなくて、靈魂の離脱とか……そ

んな感じ。

野田 ふふふふ (笑い)

向井 全部夢で片づけちやつたら、スケートがある

はずないし。

吉田 夢で片づけるのはおかしいと思うよ。だつて

スリッパは戸の所にちゃんとはさんであつたん

だから。

美波 あ、そうか。

吉田 靈魂離脱と考える方がずっと自然じやない?

美波 いや、何をとつても不自然だから。

一同 はははは (笑い)

◆ トムは幽霊だつた

吉田 これ、すごく緻密な小説でしょ。構成が。で

あまりに緻密すぎて僕には、未来と過去の関係

がわからないんだ。いくら考えても。

向井 どんなふうにわからないの?

吉田 未来と過去の関係が、おかしいんだか、おか

しくないんだか。ひとつ次元を超えた時間の話をしてるんだから、過去に戻れてもおかしくないとも思えるんだ。未来が過去に影響を与

えてるとも言えないしね。

美波 だけどさア、トムがいなければハティつて、

もつと元気なく生きてたかも……。

吉田 うん、それはそうなんだけど。

美波 トムに会うことで、すごく勇気づけられたと

ころもあるんじやないかなア。いつもひとりで淋しくつてさ。家庭環境悪いしさア。直接書いてはいなけれど。ハティにとつてもトムつての

は、時々来る、何かわけのわからんけど、楽しい時間をくれる人間だつたんじやないかつて思うんだ。

吉田 ハティにとつて、トムは幽霊だつたんじやないの、結局？

滝 だよね。

美波 さつきも言つてたけど妖精ぽいもんね。

滝 技術のことだけどさ、ひとつ的作品にまとめてようと考えるとさ、どうしてもオチをつけおさめなきやいけないでしょ。そういう点でひとつ「輪」なんだつて思うんだ。もうその世界で一応完了しているつて。それに、時間を扱うつてつたら不自然なところは絶対出てくるしね。それで、それをものともせずに、ひとつ的作品として完結させてるつてのは技術的に見てもすごいことだなつて思うね。

吉田 いくら考へてもわからないのが、これの面白

いとこか。

滝 素直に、ああ面白い作品だつたなつて方がいいんじゃないかな。

◆ ハティの過去はかえられたか

野田 トムがね、ハティの過去に入つたことによつ

てハティの過去つていののはかわつたの？

吉田 僕はかわつてないと思う。

野田 じゃあ、最後にバーソロミュー夫人がね、トムのことを覚えているつていののは「過去にこの子と遊んだな」つていう記憶があるの？

一同 あるんでしよう、あると日々にさえずる。

野田 じゃあ、トムがいなかつた本当の過去ね、そ

んな実際の生活つていのと、トムがいた生活つてのと両方記憶にあるわけ？

向井 てことになるでしよう。トムが時間を逆行して、その時代にいたつていのか、見えた、といふんでなきや記憶もないわけだし、夢も見るわけないでしよう。

美波 うーん。

向井 時間を区切つていつて、こうなつたら次こうなるつていうよりも、その時点だけでもループ作つちやつて、それが流れいくとしか言いようがない。でなきや、解釈できない。

吉田 トムが過去に影響与えられなかつたつていののは、トムの行動でもわかるんじやない。トムは葉っぱ一枚、動かすことができなかつたじや

ない。

小町 いやー、影響を与えたような気がするなあ。

向井 影響を与えたこと自体が、もうちゃんとセツ

トされているというか、時間の中で。

美波 だけどさ、この本で、タイトル変えて「バ-

ソロミュー夫人の想い出」とかさー（一同笑い）

そしたら面白くないね。今晚の夢はこうーとか

やつてたら何も面白くないね。

大場 トムから見てるから面白い。

小町 そうだね。

◆ なかなか話が進まない

向井 時間がどうのこうのと考え始めるとやつぱり

ややこしくなるね。作者の方も、あとの方だといい

がんばってやつてるしー。

吉田 いいかけんかなあ。どこがいいかけん？！

向井 だからさつき言つたようなこと。ピーターの

ことにして、最後のことにして、初めに設

定したやり方と違つてきてるでしょ。

吉田 どこが？！

滝 だから、ピーターの入り方とか少し不自然ー

吉田 ああ。

向井 初め時間だけが違つてたのに空間までぱつと

変わっちゃうとかね。

美波 うーん、そうだね。

吉田 トムは寝てたんだと思うよ。

一同 はははは（しつこいなアという笑い）

吉田 靈魂離脱だよ、これ、絶対。それだからで

きるじゃない、自分の時間の流れがー。

小町 それはー 寝てなかつたんじゃない？

吉田 僕は、僕はそうとしか思えない！

向井 だからー 最後はもう作者は時間のトリック

がどうこうとか考えなかつたと思うね。やっぱ、

「書きたいことを」さ。

美波 そうだね。情念で書き上げた……。

吉田 最初はさ、トムが起きて外に出ていくことに

して書き始めたんだ、きっと。最後は寝てるこ

とにしてー（笑い）

小町 トムは寝てないよ。

美波 最初の回は確実に起きてたつて気がする。

吉田 だから起きていつたのが靈魂どと思えば、

小町 そうじやないんじやない。（實にいやそうに）

向井 トリックが、時間関係がどうのこうのやつて

たら、またー。最後は作者は意識してない。初めから意識してないと思うんだ。

大場 時間そのものがどうのこうのー、そういうのが書きたかったわけじやないと思うから。

✿ ところで主題は何だらう？

向井 トムの方から見てみたら、自分がある一点に

いて、まわりがどんどん変わつてつちやう。

その淋しさーつていうのかな。時間が流れてそ

ういうふうに変わつてつちやうつてことを、自

分の目で見たわけでしょ。そこを書きたかつたんじやないかな。

そこをとつてみたら、すごく面白いよね。そ

れこそ、子供と大人の断絶がだんだんできてい

くつていうのがさ、筋を追つてくるとこで見えてくるのは面白いね。

向井 普通に生活していくと自分も変わつていく

わけだからわからんないけども、トムの方が固定されてるから、差が見えてくるー。

トムの方はいつも子供で、ハティはだんだん大人になつちやうでしょ。ほら、フィルムを速くまわしてーあるじやない。たとえ芽が、

ばーっと出てぱつと花が咲いてー そういう感じのが、ばーっと見えたんじやない？ ハティが大人になつていく課程がさ。そういうふうに見たら面白いんじやないかな。主題がどうかは知らないけど。

美波 いや、私は主題だと思うな！

吉田 主題じゃないと思うよ。

八木 主題じゃねーなー。

どちらどちらと各自勝手に言つている。

美波 それが主題じゃないつていうなら、何が主題だと思うんですか？ 理由はなに？

吉田 これの一番の主題はやっぱり時間の往復の面

白さ……。

小町 そうじやないよ。

吉田 そうだよ。

小町 違うね！

吉田 それから生れてくるんだ。時間を往復することによつて生まれてくる。

普段わからない。そういうのを明確にするために、トムを固定してみてハティの成長を見させて、それではつきり理解させたつていうね。そのことをやつぱり言いたかつたんじやないかな。だからそれが主題になると思う。

滝

子供から見たらそういう流れがけつこうわからんないんじやないかな。大人の 一僕ら大人でしょ。大人から見ると余計そういうことがわかつちやうつていうか見えちやう。そういうのを作者がどういうふうに考えたかつてのは知らないけど、読んだら、そういうふうに思つた。

向井

そこまでいくとちよつと言ひ過ぎだなあ……。

小町 断絶なんていつてないぜ。

向井 こつちから言い直しちやうとおかしいけども

この人の執筆意図つてのがここに書いてある。

(研究社刊 イギリス児童文学の作家たちーフアンタジーとリアリズムー参照) 子供から見て、自分達が大人になるとか、大人にも子供の時代があつたーとかいうのはおかしい感じがするわけでしょ。自分達は急には成長できないし。子供が大人になつて変わつちやうとかいうことがましょ」つて感じで。一完全にギャップが出

てくるでしょう。

吉田 でもギャップ、そんなにあるかなー？ だつ

て。

美波 あるよ、やつぱり。

吉田 ギャップに初めて気付くのはピーターに「あ

れは大人の人にやないか」って言われた時でし

よう。

美波 うんー。

吉田 ハティだつて、何か不思議な位、トムと自然

につきあつてるでしょ、間が何年もあいても。

滝 だんだんトムの姿が見えなくなつてくるけど、

それ、素直だよね。

吉田 反対にさ、トムはハティが大きくなつたのに

全然気が付かないじゃない。

向井 実際の生活だつたら、もう変化の流れはわか

んない。トムはちよつとずつだけど、その流れ

を見つける。で、ピーターが出てくることによつ

て、その違ひつてのを決定的にするんだよね。

トムの手紙を通してハティつてのは、小さな子

供であつたわけでしょ。もうそうじやないんだ

つてことを読んでる方にも、トム自身にも、は

### メンバー紹介

### 滝 雅行

ある晴れた日のことです。とても気持ちのいい日和だったので、僕と安田君は昼休みを校庭で過ごそうと思いつつ、他の人たちと遊んだり、ぶらぶらと日光浴をしたりしていたのです。ちよつと変つた事に遭遇する時には、いやあな予感なんかがするのですが、この日、僕たちは非常に健康的で、何の氣がかりもありはしなかつたのです。ところが、教室に帰ろうとしてふとなにげなく空を見上げたのが運のつき。見てしまつたのだ。ついに見た。な、なんとそれはどこまでも青い空を、一直線に横切つて行く、二機の空飛ぶ円盤だつたのだ。これはホントのことです。真実なのですよ。なにしろ飛行機の格好をしておらず、白く光る円い物で、音はいつさい聞こえなかつたのだよ。ホント。安田君が証人です。

それ以来、僕はこのような人間となつて成長してきたのです。おお、母なる上帝よ。

つきりさせるために、ピーターを出したんだと思ふ。

トム自身もハティが変わつてゐるなつてことはわかつてゐるけど、やつぱり、自分が思つてゐる世界つていうのを信じ込みたいつていうか、曖昧な所があつたでしよう。それを、ピーター

に大人の人だつて言わせることによつてね、はつきりと違いを意識させたつていうか。

吉田 その為にピーターが出て來たのか。

一同 あ、そーかーと納得

美波 そうだね。あの後急に物語暗くなつたもんね。

一同 ははははは（笑い）

美波 そう思わなかつた？ 大聖堂の暗闇のせいも

あるだらうけど、何か暗いカンジがー。

小町 ん。ピーターの役割はそだ。向井、偉い！

美波 向井君、君は偉いねえ。

向井 ははつ。

小町 そうすつとまあ、作者が勇み足でピーターを

出したのもわかりますね。

◇ 「変わる」つてどういうことだろう

八木 でも一、2つの世界を描いてるけど、その2つの世界が違ひ過ぎる。

小町 違い過ぎるつて？

八木 だから、それで断絶つて言うんだろう。

小町 そういう意味で言つてるんじゃないよ。

向井 そういうんじやなくてー、子供と大人つて違うわけでしょ。その違ひつてのは普通成長している時には意識できないけど。そのどうひうふうに違つてゐるかつてのをここで出してるんじやー。

小町 八木は、幼稚園から今まで、「あー俺は昔とは違うんだな」つて思つたことある？

八木 あるよ。

小町 （がくつ）で、小学校とか中学校の時にね、毎日こう生活してて、ああ俺はもう昔の俺とは違うんだつて思うわけ？

吉田 思つたことない？ ねえ、思つたことない？

小町。

小町 そういう意味じやなくて、もうちょっとさー。

向井 思うけどさ、明確な点がわからないでしょ。

#### メンバー紹介

野田由紀

吉田 ある時点からばつとかわったわけでもないし。

吉田 ある出来事を通して、昔と違つちやつたなつて思つたことない?

向井 思うけど、でも段階的に変わつていくでしょ。

連続一なんだけどさ。

美波 すばつと変わつた? あなたの場合。

向井 変わつたつていうのわかんないでしょ。

吉田 すばつていつても、その一間に2〜3日ぐらいい(笑い)かかるかもしねいけどさ。案外そういうことつてあるんじやない?

大場 でも、昔の自分と、今の自分との間に違和感はないでしょ?

吉田 違和感? 違和感あるよー。

野田 そういう場合もあるんじやないかなあ、すごいや出来事があつたりしてー。

美波 よく言わない? 思春期の少年はある出来事をきつかけにして突然大人になる、とかさ。

吉田 普通、みんな誰でもそうだと思つてたんだけど違うのかなあ、思つたことないかい? 小町

小町 子供から見ればそやは思わないでしょ。

昔、私は'67年に始まるサイケデリック・サウンド、フラワーメーム・ヴィメントへの憧憬の中に生きていて、心の中のストロベリーフィルズで戯れ、ジユリアと共に夢に消え、Pフロイド、クリムゾンと果てしなく広がつたものが私のファンタジーでした。その頃、私には「real」と「imaginary」の区別はつかなかつたから、ある意味で幸福でした。今、現実の限界を感じる生活を経て、imaginaryではなく本当の生活の中でファンタジーを求めて生きていきたい。ひつまでも現実と空想のボーダーラインにいるんじやなくて、現実の中でimagineして、それを具体化するために生きていいく。音楽を聴いて、その世界に閉じこもつてしまつて与えられるだけじやダメだけど、与えられなくちや何も始まらない。限りないファンタジーの世界を漂流しながら、あきらめないでYESという答を探したい。

向井 子供から見たらそういうのわかんないもんね。

急に友達が一年上の友達もいるけどさ、変わつていくつていうのかな、そんなのーわかんないでしよう。

八木 でもさ、変わり方でもね。この本では、変わつたつてことは、トムを忘れたつてことなんでしよう。

小町 忘れた一つで言うよりは

八木 忘れたつていうかー男ができて（すごい！）の  
声あり

吉田 世界が違つてきたつていうか。

大場 トムが見えなくなつたつてことが、一つの、  
一番象徴的なできごとなのね。つまり世界全  
部が変わるー違う世界を見るようになつちやつ  
たつてことじやないかな。

八木 うん。そういうことかな。

吉田 トムのことが見えるのがハティとアベルだけ  
で、アベルは家人から牛のように馬鹿だと思  
われてたよね。

### メンバー紹介

八木 淳

私も天気のよい休日の朝に散歩をするのを習慣としている一人であるが、私の散歩は決まつた道順を辿るものではなく、付近の路地という路地をめちゃくちゃな方向に気まぐれに歩いて行くものだつたので、自分のアパートの周囲の道といふ道は、ほんの小さな路地まで限なく知つているという有様であつたし、時にはそんな散歩の途中で、小道の両側に小ぢんまりとした緑の生垣が続いていくのや、曲がりくねつた小川に沿つた小径に雜木林が垂れ下がるようになつて繁つているのや、小さな鐘楼を持つた茶色い木造の教会に漆喰の壁が白く浮かんだのや、かわいらしい道祖神が道端に何げなく佇んでいるのとかいつたような思わぬ風景に出くわすこともあつたし、また時には、あまり遠くまで歩いて行つてしまつたので、帰りにはバスか電車で帰つてくることさえあつた。要するに暇人なのだ。

◆ 結局これはいい本なんだ

メンバー紹介

宮川美波

滝

僕は象徴的な見方つて意外と好きでね。んー含みがある小説つてのは象徴的だと。ひつくり返していえばそういうふうい言えるんじやないかと思うんだ。いくらでも深読みできるところがね。

向井

何かの事件をきっかけにしてかわるつていうけど、事件があつたとしても、その年齢において精神状態が違うから……。子供と大人の反応とは違うわけだし。年齢によつて、そういうものを受け入れる状態つていうのもかかわつていくわけでしょ。

美波

これは、本当に子供向け小説なんであろーか。

滝

それは言えたね。

向井

一応子供向けの本だよねえ。

吉田

子供が読んでわかるかなあ。

まあ、それなりに。子供向けに書いたとしても書いているのは大人だし。ガリバーなんかでもよく言われることだけど、読む年齢によつて全部見方が違うとかね。この本もそういうふう

ファンタジー研究会と聞いたとき、得体の知れない不気味なものをかんじた。そのサークルのビラを見たとき、とても感動した。なんとこがあつたのだ「ファンタジー（幻想）について云々」。こんなに感動したのは久しぶりだつたなあ。ファンタジーとは幻想なのか。日本語と外来語とこんなにイメージの差のあるコトバも少ないんじやないかしら。一体そのファンタジーとは何なのかと思いつつ、毎週かならず例会に出て、しつかり会員になつてしまつた。「不思議だな」「知りたいな」とは、少しミーハーチックーいやそんなことはござらぬ。少し正体がわかつてきたら、なんでファンタジーというのがこの世にあるのか、みたいなことを考えてみようかと、ひそかに思つてゐるところです。

ふうに読める本の一つじゃないかな。

吉田 うん、そうだね。

向井 こういうのを子供向けとして出すのがすごい  
つていうかね。

滝 そうだね。勇気があるね。

向井 子供が完全にこの中味を理解しなくても、面白いことは面白い。だから読んだ人が覚えていれば成長するに従つてわかつてくるでしょう。

(うーんの声あり)

向井 いつ読んでも何か新しく考えることができて。子供の時読んだ本でも、今読んだらやつぱり子供向きだなつてのもあるけど、読み直してみて、ああ、今でも読めるなつてーね。この本、内容つていかがテーマだけだつたら大人向きに出しても大丈夫だけど、あえて子供向きに出したってのがすごい。

滝 そーだね。出しあしもしないね。子供の文學つてのは、もう一つ高く見られてないしね。

美波 この本のテーマね、

人間は子供から大人になる、人生とはこうい  
うものなんだつていう、すごく大きなテーマだ

と思う。だけど作者はそれに対してもう何も言わない。

滝 そーだね。だからどういうふうにでも読める  
というのがあるじゃない。

美波 人によつては、子供の心を失つちやいけないつて読むかもしれないし、子供はばかりいから早く大人になりなさいつて読む人もいるだろうしね。だけど、すごく淡々としてて、それでこういうもんだよつて示してある。だからこれを読んで、ハティの人生つてのも見えるわけじゃない? 何かあたしはそういう読み方をしてしまう。人間はこうだつてー。

向井 いろんなパターンの人間も出てくるし。

美波 うん、だから人生は切ないものだ(笑い)とか、そんなことまで考えちゃう。

向井 うん、子供でも楽しめる要素つてのを含んでいるのを児童文学つて言うんだと思うけど、人が読んでも、ものすごく鋭い面でのあるね。

滝 そういうのみつかると本当に嬉しいね。

☆ というところで閉会です

メンバー紹介

小町

明

美波 ここらで代表にですね、御自分のセオリーを  
とばつと出していただけると、この会はとても  
盛り上がると言われてるんですけどね。

小町 ちょっと気力がなくてな。

大場 そういうのつていけないんじやないですか、  
すごく。（と小声でいう）

小町 すいません。（とさらに小さい声）

美波 どうして氣力がないの、私は歯が痛いのに喋  
つてるつていうのに。苦しーんだぞ、お前。

突然、歯を抜く話にかわり、どつともりあがる。  
歯に関しては一同、辛い思い出があるようだ。話は  
酔から、注射、さらに目に麻酔注射を打つ話にな  
る。

そして雑談の中に消えて入つてこの読書会はおわ  
り。

やろうと言い出したのがぼくだから、代表な  
んてのをやるはめになつてしまつたけど、ぼく  
は元来代表なんかできる人間じやあないんだよ  
ね。責任感は無いし、人間的な常識には欠けて  
いるし、口はきけないし。すぐ人をばかにする  
し（自分じやそんな気はないんだけどね）。傲  
慢だし、尊大だしね。ふつうは代表なんかにな  
ると、役割意識がでてきてしつかりするものな  
のに、それもない。こんな人間なのに、みんな  
よく我慢してくれてると思う。今日までファン  
タジー研が存在して、なんとか機関誌第一号を  
発行できたのも、すべてみんなのおかげなんだ  
よね。ほんとに感謝しています。

人間の幻想というものを考える、などという  
大それた看板をかかげてしまつたけれど、それ  
に近づけるように、みんなもいつしょにがんば  
ろうよ。

「上昇・下降の一考察」

毛呂恭久

えー、世間にはしつこく上下運動を繰り返すものが、それこそ山のようになります。ミシンやピストン、それに、もちつきや、柳下の蛙なんていうのは、そのほんの一例ですが、そんな中で、たとえば、

けてやろう、と思つたかもしれない。いやあるいは、もうすでに火をつけてしまつた、せつかち極まりない諸君もいるやもしれぬ。しかし、それこそまさに、我々の思つぽなのだと思し召されよ。諸君、私の欲するのは少数の理解者のみである。従つてこの行為は、聰明な（自分にとつての）読者を選び出すため、故意に行われた、いわゆる間引き行為であることを理解されたい。

あのにつくきエレベーターが、今、ふと、私の脳裏をよぎつてゆきました。ああ、思い出すのもいまわしく、エ・レ・ベ・ー・タ・ー（自然と天空へと目はゆき、持ち上がるこぶしにも思わず力が入ろうというもの）。うーむ、どうしてくれようか、うーむ、うーむ、うーむ……。☆と、ほどなく、あたかも、冬の間に積もり積もつた雪が、春の息吹に触れ、雪どけを迎えるがごとく、この難問は解けてしまつた。なんのことではない、要するに私がエレベーターに乗らなきやいいんですよ。（読者諸君、ここまでの大章を読み進めてきた諸氏は、おそらく、手の力がぬけていくのを感じただろう。（もつとも、この本を手にしていればの話であるが）衝動的に、火などつ

諸君、読者諸君、どうか、あまり興奮しないで欲しい。先程言つたばかりではないか。どうかこの本を捨て投げたり、私の顔めがけてぶつけたりしないで頂きたい。ど、どうか、ひとつ。で、でもほんとの話、気分悪くなつたりしません？ね。）

で、再び本題にもどろう。すなわち、エレベーターとはいまわしいものなのである。ここまで、一貫して、その姿勢をくずすことなく、そう結論づけた。が、しかし、その嫌われもののエレベーターにも良いところが必ずや、あるはず。という発想から、探しに探したところ、あつた、あつた、ありました。いやー、何はともあれまずはめでたい。この長所は、特に、超高層ビルとなるに従つてその度合いが増すと言えましょう。

と、ここで話は飛びはねる。かのトーマスマン（THOMAS MANN 1875-1955）はその代表作「魔の山」で、「生の暗い面を覗くことは、生の肯定、生の喜びを決して閉め出すことにはならない」（同書解説より）ことを主張した。そして「ナフタからはあらゆる存在の悲劇性についての知識を受けとり、セテムブリーニからは生の価値の肯定と、深淵への親愛感の拒否を受けと」つた主人公ハンス・カストルプは「生」と「死」に代表される概念の対立を克服することを学ぶ。また、かのジャズ・ミュージシャン 坂田 明は大地に根をおろしながら飛びたい、といつた主旨の発言をしている。またまた、かのピートルズが名曲ヘルタースケルターの中で叫ぶ内容は、一底についたらすぐさま頂上へ、頂上でまたとつて返し、底で待つているのは登ることだけ、永久に続く上下運動（あたりに意訳）。またまた、かのイエスも、名曲「危機」で「私は登る、私は降りる」を重要なキーワンセプトに置いていたのであつた。

結論を急ごう。例えば、これらの姿勢を統合して中庸的精神、と呼ぼうとすれば、当たらずとも遠からず、という返答しか私にはできない。では、どう言えれば良いのか。エレベーターの長所は上下運動に専念すること、上下をカバーすることができる、ということであつた。そこから考えればいくぶん容易に判断することができよう。これは生を嘗む時、特に「創造する」時に欠かすことのできない態度と私は信じて止まないが、それは、常

メンバー紹介

毛呂 恭久

に下降しようとしたながら、かつ上昇しようと試みること。言いかえれば、目にも止まぬ早さで上下に振幅し続けること。そして、充分振幅できるだけのパワーをもつことである。「概念」の対立の壁を打ちくずしてみせること、俗世に墮することなく、奉仕精神を抱くこと、現実から逃避することなく、夢を形作り具体化を図ること、そして、その原動力となる創作意欲の火を燃やし続けること、これこそ、我々が常に持ち合せていかなければならない姿勢なのである。

おあとがよろしいようで……。おしまい。

「私、決断力のカケラもない人大嫌い。」「う、何ということを。」

「全くあなたときたら食べもののことしか頭にならないんだから。この白菜、しいたけ、ねぎ、ニンジン、ゴボウ、大根、男爵いも……。」「ちよつ、ちよつ、ちよつ。」

「座敷わらし」

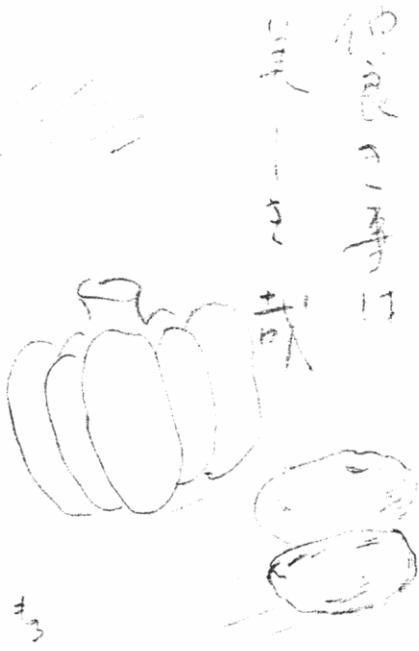
「…………」

「ふん。返す言葉もないのね。病みあがり！」  
「ひえつ、ひ、ひどい……。」

「すつとんきような声あげてうるさいつたらありやしない。本当にあなた、時間にルーズだし、部屋の中はうばすて山、憶病で、ずるくつて、どーしょーもないわね。」

「ち、ち、ちつきしよう。」

「なによ、さわらないで、鳥肌たつちやう、首なんかにさわらないで、くるしいわ、あ……。」



コマチとはイタチの一種といふ生物学的根拠を、みじんも持たないすぐれた見解が、八木博士によつてなされたが、私は言語学的根拠をいくぶんなりとも携えたコマチ魚類説を取りたいと思う。すなわち公式はこうである。

human being KOMACHI=HAMACHI fish  
よつて、しょう油につけて日本酒でいつぱいが一番よろしく。

ファンタ研版

滝 雅行

椿説 R O O T S (五つの壺改訂版)

逃亡者コマチは今、走つてゐる。

追手が次第に距離を縮めてきてゐるのを背中に感じながらも、コマチは息を切らして走り続けていた。コマチはついに魚の一種であることを白人に知られてしまつたのだ。魚類差別の魔手が彼に襲いかかる。ショットガンを手に持つた数人のKKKがコマチの後方数百メートルにせまつてゐた。だが、コマチはもう自分の命がそう長くはないことを理解していた。道は両側を立ちはだかつた崖に囲まれ、その先は激

しい濁流の川が待ちうけてゐるのを知つていたのだ。闘おうにも彼は一丁の銃さえ持つていなかつた。はあるか後方でショットガンの発射音が数回鳴りひびく。ついにコマチは川に達した。

しかし、そこには幅10cmの丸木橋がかかつてゐるだけなのだ。ピンチだつた。その丸木橋は体操選手のように敏しようでなければ渡ることなど不可能である。コマチは思いあぐねたが、ふと傍を見ると、一りんの花が咲いていた。その時、どうどうと流れ川の音が、彼にはこう言つてゐるようと思われたのだ。「引き抜け、そして呪文をとなえながら、その根っこを食べろ」もう打つ手のなくなつたコマチは神の助けとそのとおりにすることにした。再び銃声がとどろいた。もうちゅうちよする余裕はなかつた。コマチは川に叫んだ。「呪文を教えてくれ!」川は答えた。「『コマ』と言つて、根を食べて、『チ』ととなえろ!」

コマチはその瞬間コマネチに変身し、丸木橋を平均台を渡るように渡ることができて助かつた。

あー、我ながらくだらん。

フェルメール

## 光の幻想

八木 淳

オランダの画家ヨハネス・フェルメール（一六三二—一六七五）は、光—それも窓から差し込んで来る陽の光を描いた画家だと言つても過言ではない。

「手紙を読む若い女」は、大きく開かれた窓から差し込む光で、手紙を読む女を描いたものだし、

「牛乳を注ぐ女」では、むき出しの白壁に映える陽の光が大変美しい。「エビネットの稽古」「真珠を秤る女」「真珠の首飾り」でも、暗い部屋に差し込む陽光によつて、この世のものとも思われぬ美しさを感じさせる。

一説にフェルメールは「カメラ・オブスクーラ」（暗箱—針穴写真器のようなもの）を使用したと言われるが、これもこの幻想美を感じさせる一役を担つてゐるのだろう。

また、肖像画「ターバンの女」でも、キラリと光る大きな瞳と真珠の首飾りの大きな粒、ぬれたような口唇の反射光には、はつと驚かされる。

そして、フランスの今世紀最高の作家ブルーストが「黄色い小壁」と詠嘆した「デルフトの眺望」では、反射光が画面一杯に幻想性を漂わせている。

幻想と言つても幅が広い。が、その根底にあるものは同じであると思う（根底のないものや、根底の稀薄なものも多いが）。

その根底を探つて行くことは、人生における一大興味である。

たちー。

現代では忘れられ、居場所を失くしてしまつたもの達が登場してくるのに、何も幾和感を感じないのは、むしろ、ごく当然のような気がするはどうしてだろう。伝説つていうのは、その奥に真なるものをひそませている、なんていう言葉をふと思い出してしまう……。

ファンタジーといふものの自体、よくわからない私が、こんなこと書くのはおかしいかもしないけど、世界が『ファンタジーそのもの』の存在を認めていた、そんな時代があつたんじやないか、なんて思つたりする時がある。

この本を読んだ時もそんな気がしたのです。伝説と神話の時代、紀元前8世紀。ローマ……。

ストーリイを説明するなんて、野暮なことはしないことにします。そのかわり私の好きな一節を書いておわりにします。

まるで翼でも持つてゐるかのように木々の間を走りぬけていくレムスに、ファウニ族、シルヴァンは「君はまるで空をとんでいるみたいだ」と言う。

レムスは笑つた。

「小さい頃、啄木鳥がぼくに食べ物をくれたそうだがね。」

「翼もくれたんだろうー。」

金色の髪の美しい青年。双子の兄、ロムルスとともに、ローマを建国したという伝説上の人物です。彼らはギリシア12神の一人、軍神マルスと、巫女であるレア・シルウェイアの間に生まれたという。ほんとうに神話めいているのです。さらに、登場するのは人間だけでなく、ファウニ族といふ牧羊神や木の精

ページをめくれば、伝説と神話の時代。そのファンタジー世界に火の鳥をみつけることができるはずです。向日葵色の髪をしたレムスといふ名前の火の

鳥を一。

火の鳥はどこに

「薔薇の花園」に収録

ハヤカワ文庫SF SF 267

トマス・バー・ネット・スワン

つてくる。もう一度、ふとんに潜り込みたいのを、一心におさえて、なんとか下へおりるのが四時半。999と花の子ルンルンを見終つてから、ようやく洗面所へ行く。朝食・ケロツグに牛乳をぶつちやけて、スブーンですする。

たちまち夕食、腹がパンパンになり、『本当に牛になつてしまうのではないかしらん』などと心配しつつも、炬燵で横になる。それが八時。

別に、自分の日常生活を書き綴ろうと思っているわけではない。ただ、こうした生活パターンの中で、幻想小説を読むと、魂をすいとられるような、確實に自分の寿命を削り取られていくような、そんな気持ちになつてくる。このことが言いたかつたのである。

夢野久作の『死後の恋』や久生十蘭の『昆中図』は、こうした御人にはうつてつけの書物である。どちらも、読者を幻想的な気分だけでなく、始まつたばかりのカラー映画みたいに、毒々しい色彩を目の前に浮かび上がらせてくれる。内容は、それぞれ楽しんでもらうことにして、ここではふれない。どちらも短編である。

## 雑

## 感

江馬龍一

起床、PM 4・00。

どんよりとした目ざめ。寝床から這い出た瞬間に、体中から一気に疲労感が脳みそをめがけて這い上が

思うに、幻想小説なり、怪奇小説が、成功するか否かは、正義の味方が立ち塞がる怪物どもを、ものともせずに、王女様を救い出すといった活劇調のものはともかく、その小説の中で、色を感じられるかどうか、というものが一要素になつてゐるだろう。この点に関しては、小説よりマンガの方が描きやすいかもしれない。

幻想マンガ、こういつた名のついたマンガのジャンルはない（と思う。）しかし、こうしたマンガがないといふのではない。それらは普通SFマンガの中に入れられている。この辺のマンガ家でおもしろいのは、山岸、吾妻、大友、諸星等たくさんいるが、どれも皆、語りつくされた感がある。多少話題になつていないのに、あしへゆうほの『悪魔の花嫁』や高橋葉介がいる。あしへの方は古典的な少女漫画の手法（善は白、惡は黒髪、ケバケバしい目 etc.）と物語が奇妙にマッチし、逆に高橋の方は、絵そのものが怪奇マンガになつてゐる。

最近、おもしろかつた本のうち、前述のものをとりあげた。まあ、幻想文学とかファンタジーとかいつても、そのジャンルは様々で一概には言いきれな

いが、ただその辺に妖精をヒラヒラとばしたり、魔法使いが出たりするだけでは、何とも味気ない。所詮我々はどんなにあがいても、日常生活の欺瞞といつたもの（道徳観・世界観など）から逃れられない、あわれな生き物である。本当の幻想とはこうした我々のみじめさを暴露するものではないだろうか。

歯が痛いのでこれで終り。

ところでルンルンはどうして僕の町にきてくれないのだろう。いつかは私の住む町へ来てくださいな。



メンバー紹介 江馬龍一

メンバー紹介 大場葉子

3月9日(火)

感星直列でさすがに天変地異はおきなかつたが、一日中歯痛に悩まされる。二時間毎にノーシンを飲んだが効果なし。ねむれず。

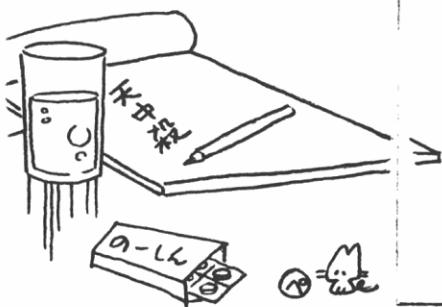
3月10日(水)朝

とうとう一睡もできなかつた。痛みはさらに激しくなる。それでも九時には家を出る。

昼

茶店で自己紹介文を書かれる。歯痛は、ノーシンを半分あけてようやく治まる。しかし、胃の調子が悪い。

今日はきっと天中殺だ。



本の一ページめをめくる時には不思議なときめきがある。もしかしたら別世界への扉を開けるときめきなのかもしれない。そしてページをめくつていくうちに私の頭の中に一つの世界が生まれる。(そんな時、Fantasyという想いで、その世界をとらえると、何故かペン画のイメージで世界が生れる。どうしてかなあ……)

そんな別世界への扉の鍵は誰もがそれの心に持つているのではないかな。できることならいつまでもその鍵を失くさないでいたい。鍵を失くしてしまつたらもう一度と入れない世界だから。

\* \* \*

いつたいどこが自己紹介なのかわからぬけれど、Fantasyという言葉から思いつくままに書いてみました。

## メンバー紹介

門倉直人

ぼくは、ファンタジー（文学又は音楽）に接する時、いつも幼い日々の事を思い出す。

☆ 小学生のころから不思議大好き少年でした。特にファンタジーには目がなく、中学一年のとき、『指輪物語』を読んでいらい、病みつきになりました。

☆ 趣味は多趣味で、一々挙げられませんが、現在はファンタジーゲームにこつっています。

憧憬に満ちた樂しかつた思い出なしには、ファンタジーはあまり意味がない。そんな、なつかしい頃を思いながらも、近頃は、安易に言うことではないが、気がめいることが多く、しばしば、E.488のアダージョのような心境にひたつてしまう。そして、時にはそれが、悲愴交響曲の終楽章のごとき、すぐわれようのない絶望感にまでエスカレートする。

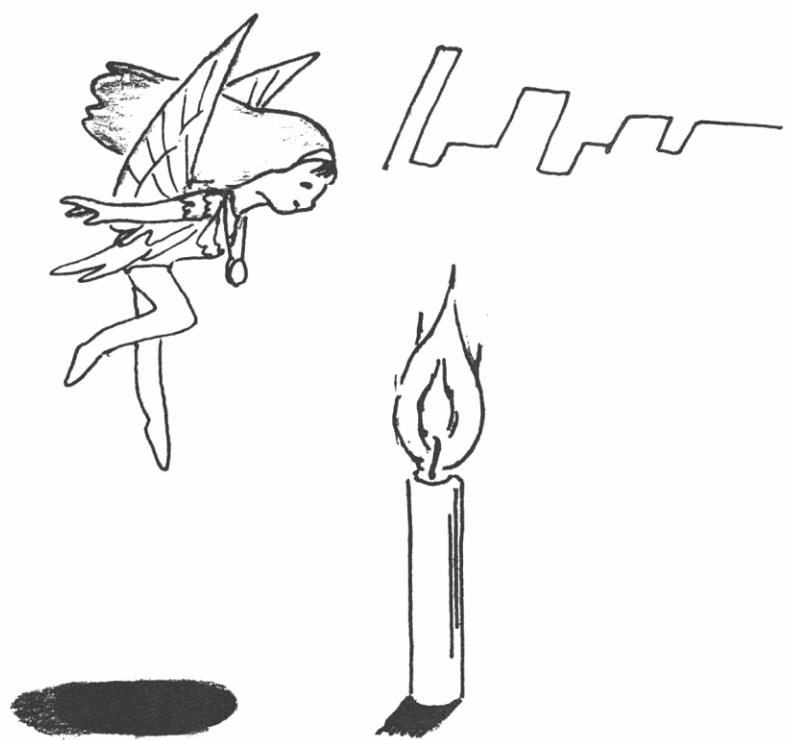
そんな時、ファンタジーに接すると、一時にしろ、心がなごむみたいだ。そんな感じで、ぼくは、クラシックとともに、ファンタジーを精神の糧の一つとしたいと思つてゐる。

今は、ファンタジーの世界の入口に立つてゐるのにすぎない。果たして、どんなすばらしい世界が待つてゐるのかなあ。

ファンタジーといふ言葉は、とてもいい響きがする。何か大きな夢がありそう。その言葉の持つ意味を理解せずして、なぜか愛着を感じる。

## メンバー紹介

黒河史郎



ファンタジー研究会機関誌

FANTASIA  
～ファンタジア～

創刊号

1982年5月14日発行

編集人 宮川美波

発行人 小町明

「PDF作成：2026年1月29日 向井 洪  
本PDFの無断複製・転載・改変を禁じます」



